

平成30年度 第3回櫛引地域振興懇談会 (会議録・概要)

○日 時：平成30年9月20日(木) 午後2時から午後4時15分まで

○会 場：櫛引庁舎 第1会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 小林 幸一、菅原 勝、武田啓之、小林 良市、上野 由部、清和 ふみ子、
 劔持 澄子、重松 美鈴、小林 範正

(欠席委員) 木村 英俊、遠藤 勉、渡部 聖一、佐藤 正幸、佐藤治郎作、鈴木光秀

(市 側) 櫛引庁舎支所長 佐藤 浩、総務企画課長 宮崎 哲

市民福祉課長 佐藤 美鈴、産業建設課長 早坂 進

総務企画課地域まちづくり企画調整主査 遠藤 直樹

総務企画課総務地域振興専門員 富樫延弘

地域振興課地域振興専門員 本間 育子

一次 第一

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 櫛引地域振興計画(素案)について

(2) 櫛引地域まちづくり未来事業計画(素案)について

(3) その他

4 そ の 他

5 閉 会

.....

1. 開 会

総務企画課長

大変ご苦勞様でございます。皆さんお揃いですので、ただいまから平成30年度第3回櫛引地域振興懇談会を開会いたします。始めに懇談会会長であります小林区長会長からご挨拶をお願いいたします。

2. あいさつ

会長

皆さん、本日はご苦勞様でございます。特に今日は収穫の秋ということで忙しい中のご出席、誠にありがとうございます。事前送付された会議資料は素案というように表記が変わって作業も進んできているのかなと思います。私自身はこういった役目は初めてでありますのでうまくまとめられるか不安もありますが、みなさんからは忌憚のないご発言をいただきながら、事務局からは勇気を持って大胆に仕上げていただくようお願いいたします。限られた時間ではありますが、大いに発言していただきたいと思っております。本当に今日はご苦勞様でございます。

総務企画課長

ありがとうございました。

続きまして、櫛引庁舎佐藤支所長よりごあいさつを申し上げます。

支所長

皆さん、こんにちは。いよいよ実りの秋となりまして、稲刈りや果樹など大変忙しい時期を迎えました。本日は、公私ともにご多用のところ、第3回の櫛引地域振興懇談会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から、櫛引地域の振興のために、それぞれのお立場で大変なご尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、このたびの櫛引温泉ゆ〜Townのレジオネラ菌検出に伴います営業自粛につきましては地域住民のみなさまに多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしていることにお詫びを申し上げます。1階男子かぶり湯の小さい水槽から検出されたものでございます。浴槽水やシャワー水には異常がなかったものでありますが、より安全性を確保するという観点から営業を自粛したものでございます。その後、直ちに対応策を検討した結果として、老朽化したかぶり湯の水槽を撤去してシャワーに切り替える工事を実施したところでございます。営業再開後も、今回の事案を教訓といたしまして、これまで以上に衛生管理を徹底するよう運営管理にあたる櫛引ふるさと振興公社と一丸となって取り組んで参りますのでご理解を賜りたいと思います。

さて、本日の第3回懇談会は、櫛引地域の振興計画について、前回はたたき台をお示ししましたが、今回は素案としてまとめまして、前回からの変更点やご意見を頂いた人口推移などについてご説明を申し上げます。また、前回一覧でお示しをした地域まちづくり未来事業計画の各事業を簡単に説明させていただいて、各々の計画につきまして忌憚のないご意見やご提言などを頂戴できればと思います。なお、全体計画であります第2次鶴岡市総合計画であります、本日午前中に審議会がございまして、重松委員からもご出席をいただいたところです。

これまで、各分野の専門委員会で協議をされて参りました施策の大綱や体系図、そして今回の総合計画に新たに掲載する予定である未来創造プロジェクトという各分野横断的なプロジェクトについても示して、協議が行われたところでございます。

10月中には各具体の項目に文書も加えられて計画案ができ、その後専門委員会に諮られて計画案がまとまっていくということになっており、櫛引地域の振興懇談会にも時期をとらえてお示しできるものと思っておりますので、その際はよろしく願いいたします。

挨拶は以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 協議

総務企画課長

続きまして協議に入りたいと思います。懇談会の設置要綱により議長は小林会長にお願いいたします。

会長

では、早速協議に移りたいと思います。最初は(1)櫛引地域振興計画(素案)について、(2)櫛引地域まちづくり未来事業計画(素案)について、15分ぐらいずつに分けて説明をお願いします。

説明

全体概要について(総務企画課長、総務企画課地域まちづくり企画調整主査)

人口の推移関連の資料、櫛引地域振興計画(素案)、櫛引地域まちづくり未来事業計画(素案)について、総務企画課長、地域まちづくり企画調整主査が全体概要について説明。

地域まちづくり未来事業計画について

(総務企画課長、産業建設課長、市民福祉課長、総務企画課地域まちづくり企画調整主査)

地域まちづくり企画調整主査が事業総括表(21事業)に関して説明をした後、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長より各担当部分を説明。

会長

ただいま(1)(2)それぞれの説明がございましたが、まず最初に(1)の櫛引地域振興計画(素案)の関連では人口問題に関して丁寧な説明がありましたが、説明しなかった部分や気になった部分があれば、皆さんから発言をいただければと思います。

産業建設課長

人口データの資料11ページを見ていただきたいと思います。人口動態のクロス集計で鶴岡市の縦軸と三川の横軸で見いただくと、三川から鶴岡に転入した数、三川の縦軸と鶴岡の横軸では鶴岡から三川に転入した数を表しています。つまり鶴岡から三川への転出が多いということで、通常は大きい都市が吸収する形なのでこういう形はなかなかありません。これは酒田も同様で、ここには鶴岡の魅力って何なのか、産業構造がどうなのかというところも見え隠れしている面があります。

会長

税金とかの面もあるのではないか。

産業建設課長

以前は宅地が安いのと子育てが充実しているからとよく言われた。庄内町もそうだが。

A委員

三川町も庄内町も福祉関係とか子育てには非常に力を入れている。

会長

次に、(2)については皆さん方から一人ずつ発言をいただきながら、気になるところあるいは付け加えるところなど含め(1)(2)あわせて何かありましたらご発言頂きたいと思います。

B委員

人口に関する資料を丁寧に量もたくさん準備していただきありがとうございました。前回も申しあげたように生産年齢人口が引き続き減少することがこの資料でもわかります。それで、今の基本計画や振興計画などに将来展望を考える訳ですが、その計画を推進することを考えた時に手詰まり感が否めない。その理由は何と言っても人口減少、なかでも生産年齢人口の減少の見通しがある。鶴岡市も人口のまとめをみると生産年齢人口は27年から52年まで2万5千人、35%1/3強が減少する見込みとなっている。これは、生産とか地域づくりの担い手が減少するという事。そういった中で、人口拡大・発展という計画が一方にある訳だが、ではその担い手はいったいどうするのかというところが、この計画では見えてこない。生産とか地域づくりの担い手が減っても産業振興や活力ある地域づくりをどう構築するか。これを振興計画の基本課題に見据えて施策を考えていかなければならないのではないかと。

具体的にいうと、櫛引の平成27年の第1次産業の人口が806人とありましたが、25年後の平成52年は先ほどの推計によって35%減少すると仮定すれば約300人減って500人程度になる。この500人で振興計画を担うということになるので、そこでの整合性をどうしたらいいのかという点の書き込みが少ないと思う。たとえば、その点に注目してみているのだが、岩手県内の

例だったと思うがスマート農業を推進するということで、ドローンを導入したりトラクターを自動操縦したりと先行きが見えているが、その際ドローンやトラクターを操縦する人の育成が必要である。それがなかなか進まない、技術は見えているがその担い手がない。担い手自身も減少しており課題なのではないかということである。たとえばA Iのこともある。フルーツの里づくりのところで、少ない人数でも生産年齢人口が減少しても産業振興ができるような具体策というような書き込み。果樹園地の基盤整備についてあったが、具体的に何をすると担い手が減っても対応できる（果樹生産が振興される）ということが見えてこない。生産施設の省力化のこともあろうのではないと思う。さくらんぼのもぎ取りは非常に時間がかかるが、さくらんぼのもぎ取り機が開発されているというニュースもあったようですが、例えばそういったものを導入していくといった計画にはなっていない。また都市農村交流では地域の人口（消費者）が減って経済活動が停滞するので人を呼んで消費してもらおうという理屈だと思う。それで、交流人口の拡大については各所にあるが、具体的に現状は何人で将来は何人ぐらいで、消費額は現在はこのぐらいのものが交流人口によって補っていくということだと思うので、その辺具体的な数値目標が少ないと思ったところ。それから、まちづくり未来事業の中でも現状と目標の数値化が少ないなど。具体的に、赤川エリアの整備をして交流人口の拡大を図るとした場合、今はどのくらい人が来ていてそれを何人まで（交流人口）を増やします。そのためにはこういう整備が必要ですよといった数値目標が書き込まれてもいいのではないと思う。

会長

今出されたことに対して市からの補足がなくてもよろしいですか。

産業建設課長

ご指摘が何点かあった訳ですが、第1次産業の計画への具体的な取組み、スマート農業の話がありました。そちらのほうに関して、また果樹園地の基盤整備の具体的な中身について何をやるのかという質問だと思います。まずスマート農業については、今後の農業の形として、少子化の中でのICT化も含め総合計画本体にも農業振興の書き込みがあります。檜引地域の計画が基盤整備で済ませているという指摘はそのとおりですが、その背景にはICT（IT活用、AI等）が含まれると思いますし、ドローンも必要になってくると思う。また、集団化や法人化によって効率を高めて担い手不足を補うという点につきましては、ご指摘を受けもう少し丁寧に書き込みをできればと思っております。

会長

只今農業に関わるドローンの話が出されましたが、つい最近住む私の集落にドローンを積んだトラックが入ってきたのだが、ドローンの先進的な話がありますか。

C委員

ドローン自体は個人で持っている人もいるし、ドローンも正規というか免許が必要なものと少し高いが60~100万円くらいで買えるので、普通のラジコンとあまり変わらないので買う気があれば誰でも買えると思う。だからドローン自体がICTという感覚はないです。

産業建設課長

去年と一昨年、桂荒俣の人がドローンで農薬散布をやったという事をお聞きしているが、散布が安定しなく、結局手作業に戻ったとのこと。（今は使っていない）

B委員

それで、担い手が2/3になる訳だから、ドローンを使った農業で2/3に省力化できるかということ。

産業建設課長

そこは色々な物の重ねあわせだと思うし、きびしい面はあると思います。

会長

D委員は、農業に関わること何かありませんか。

D委員

(労働力不足に関しては) 外国人労働者を地域でどのように受け入れるか課題だと思う。

会長

私の地区内でもヘリ防除をやっている訳ですが、周辺の地区の人に頼んで行っている状況にあり、ほとんどがヘリ防除の委託に変わったようです。園芸作物に力を入れていることや田んぼの受委託が進み米の労働力を減らす努力をしています。

総務企画課長

生産年齢人口は15～64歳までだが、64歳で生産をやめる訳ではなく、国でも年金のことも絡むが年をとってもある程度生産できる人口を増やそうとする施策だとか、女性の社会参加だとか、実質の生産年齢人口をキープしようとする取組みが行われている。また、個人的な意見だが、果樹生産も担い手の高齢化が進んでいるので、若手にバトンタッチしようとしているが、産業として魅力的なものにして、興味を持った人、IターンやUターンも含めて何とか若い人達を後継者として取り込んで行こうということは施策の中で考えているところである。それが最終的に今の担い手の2/3になるということまでは考えてないので、そういった視点が必要なのかどうか委員の皆さんより(農業分野に限らないが)現場としてどう見通し立てているかご意見を伺えればありがたい。

産業建設課長

外国人労働者の問題は確実にあるのだと思うが、櫛引地域の未来事業計画にそれを書き込むことが妥当か否か、また、外国人労働者の受け入れ態勢が可能かどうかも含めて皆さんから議論いただきたい点です。

支所長

農業本体に関しては総合計画の中にどのように示されているかということもありますし、未来創造プロジェクトの中にも未来先導型農業に関するプロジェクトも組まれており、その中にも近代化に関して書いてあったようです。必然的に生産年齢人口が減少するという捉え方も振興計画の中でもう一度見直しをしてみて、加味すべきところは加味をしていくということで対応していきたい。また、フルーツの里づくりについては、現在従事していない人を迎え入れるという考え方の想定であるが、総体で生産年齢人口が減ることについての視点をどの辺まで振興計画に反映させるかについては、まだ時間がありますので各担当において検討してみたいと思います。

会長

それでは、(2) 櫛引地域まちづくり未来事業計画(素案)で1~21まで説明頂きましたが、関わりを持っている委員が相当おられますので、この中で気になったことなどあれば発言をお願いしたいと思います。

A委員

黒川能に関して後継者はこれからどうなっていくのか、先ほどの人口の問題と同じことなんだろうと思います。それに歯止めをかけるためには、伝統芸能だけでまかなうことは不可能だと思う。だから、生産年齢人口数は減ることを前提として、様々な計画・事業を起こす時にその目的・効果をどうみるかを明確にしていかなければダメだと思いました。その効果は、利用者とか観光としての実入りの面から計画を立てなければならない。同時に、伝承することだけでなく、増加させるためにはどうすればいいのかを考えた時に、空き家になる家が増えてる一方で三世代で頑張っている家もあるので、公的な面に任せるばかりでなく、意識的に家を継続させようとする力がその家族にあるかないかということも大きい問題だと思う。次の世代次の世代がどう考えて生活しようとするか。今まで通り農業ばかりでいいか、帰ってきたいが働く場所がないということがあるが、ここに計画や事業を起こすことによって、生産的な人口を受け入れできるようなシステムをできるかということ。これを重ね合わせた形で進めていかなければならないのだと思う。私も王祇会館を中心に人を呼んで色んな交流・事業を行っていますが、黒川にとどまってくれる人は多くないのが現状。数年に一人ぐらい嫁に来る人もいるので、淡い希望を持っている面もあるが、ハードとソフトを交差させながら進めなければならないと思う。同時に、我々自身が住民としてどう意識するかももっと啓蒙しなければならない。あとは、私的な大きな力を借りる産業が必要にもなってくるだろうし、それを行政がどう後押ししてくれるかという面も含め、難しい面があると思うが、その辺絡めながら着手していく計画・事業にしていければいいのかなと思う。

会長

A4版の地区別人口の資料をみても、世帯数はそんなに減っていない。要するに核家族化になって人口が減っているということ。我々の時代は家にいて家族で暮らせばよかったが、今は仕事がいっぱいしないと地元に残れないということだと思う。その意味で、A委員が言ったことは非常に重要なことだと思う。

それでは、E委員、21事業の中で何か気になったことがあれば教えてください。

E委員

私も今の人口の話で、視察効果(事業)によって交流人口を増やすという将来展望があったが、この計画は地域に残ってもらうような施策ではない。人を呼び込もうとする戦略であるが、大きな問題はこの地域に定着してもらうこと。視察効果があったら10万人くらいは残るとか施策効果として人が増えるという構想はあるけど。酒田や三川に流れずにとめておく策はないのか。観光にばかり目がいっているの、足りないのはその面だと思う。もう一つ、河川エリアの事業に関してだが、水は上がらないのか。この間は月山ワインまつりもあったが、この一帯のエリアは増水時大丈夫なのか。整備したら増水によりダメになってしまったということはないのですか。

産業建設課長

基本的には大水になれば上がります。でも、上がってもいいような構造になっているということです。月山ワインまつりの会場もいつ増水してもいい構造になっているのです。堤防内は、増水時にすぐ移動ができるような構造になっており、櫛引の運動公園も同様です。

会長

櫛引の運動公園のナイター設備も移動可能な構造となっています。
ただ、前段あった人口問題が一番（地域が）停滞する原因だと思う。

産業建設課長

逆にご意見をお聞きしたいところがあります。おっしゃる通り産業面の記載が実はあまりないのです。農業面の第一次産業は書いてあるのですが、（例えばF委員に関連する）第2次産業の部分の記載がなく、E委員がおっしゃったところの書き込みも必要なのかなとも思っているところですがご意見を頂ければと思います。

F委員

人口構造の話ですが、若年層のところの人口が多く流出しているところが何と言っても一番問題なのかなと思います。当社でも毎年採用もしているのですが、そこを何とか増やさないとと思います。確かに長男とか立場もあり、残れる人を採用するという話も聞きますけれども、その中でもやめる人もそれなりにいるし、定着率が悪いというところはこの地域の課題と言えるかと思います。若いうちでないとなかなかできないこともあるし、後でまた戻ってくるケースもあると思いますが、その辺は人口に関しての問題なのかなと思います。あとは、人口減少しても地域を維持していくため、生活をしていくために所得を上げていくことに繋がるような取り組みももう少しあったらいいのかなと感じました。事業自体は、地域の特性を伸ばすようなものになっているので別に問題はないのかなと思います。また、情報発信の話では、ケーブルテレビの話が出ていますが、指定管理者になって2期目ですが、サービスの多機能化の要望もあります。CMもできるようになっていますし、ぜひ色々な活用をお願いできればと思います。

会長

今、KCTが使用している光ケーブルの余力はどうなっていますか。

F委員

国の新しいサービスもできているので、それを取り入れればサービスも多様になってきますが、先ほどのA3版の図面にあるように、下山添とか丸岡とかは住宅団地も増えてきているので、実際回線がパンクに近い状況にあるのは事実です。

会長

KCTと言うと、どうしてもインターネットの利用料金が気になるのだが。利用当初は、他地域より早く光回線を利用できた訳だが、今はNTTの様々な割引料金が受けられない状況になっている。何とかならないのか。

総務企画課長

市のインターネット接続サービスについてはNTTが運営しておりますが、櫛引と朝日で運営しているサービスはBフレッツが基本になっており民間では古いシステムとなっています。NTTでも直接の民間でサービスとして展開すること検討しているようでございます。要するに櫛引でも、市のインターネットだけでなく他の地域のような民間サービスが展開される可能性が出てきています。

会長

だいぶ時間も経過したので、皆さんから話を出していただきたいと思いますが、B委員どうぞ。

B委員

まちづくり未来事業計画の5～8番くらいまでですが、色々な事業を行って目的としては交流人口の拡大を図るとなっているが、その中で資料NO5の交通基盤の整備ですが、期待される効果のところで王祇会館・春日神社への来訪者数が平成29年2,575人で、7年後の平成36年が26,575人となっているが、毎年3,400人ずつ増えるとあるがこうなりますか。

産業建設課長

これは目標数値ということで記載しているもので、羽黒山が年間67～68万人、湯殿山神社が9万人観光客が来ておりますので、鶴岡市南部の広域観光をすれば3万人前後は可能かなということで設定させていただいたもの。要は朝日の湯殿山の9万人をベースにその1/3の来訪者数の獲得を目標の目途としているものです。

B委員

どういうアプローチをしてその数字になるかということを書き込まないといけないと思うのだが。

産業建設課長

我々が実際取組んでいる例を紹介しますが、今年度の鶴岡と羽黒山、朝日の3点を結ぶ観光ぐるっとバスがあります。これは庄内交通㈱が運営していますが、これを嚮引に寄って下さいと今年もアプローチをかけました。今年は期間が短く却下されましたがそういったものとか、例えば実現できるかわかりませんがANAと連携しながら観光果樹園にきてもらうとか、そういったことをすればこの数値は無理のない数字ではないかと。あくまで目標ですありますが。逆に皆さんならどのくらいの数字になるか聞いてみたいところです。

B委員

受け入れ側の態勢整備もしないとダメなわけですよ。

産業建設課長

そうだと思います。

B委員

いっぱい来てもらったが、受け入れ態勢ができなくて、十分なサービスができませんでしたという訳にはいかないと思う。

産業建設課長

そこはこれから検討だと思います。

ディテールの施策がこれからは大事になるので、そこはまた皆さんから知恵をいただきたいと思います。

B委員

出羽三山にこれだけ来ているから、その1割も来てもらおうという目標だという訳ですね。

産業建設課長

それでも6万人は来る計算になる。

A委員

わかります。わかるけれども、受け止める態勢が王祇会館にあるかといったら、その整備がまだまだ届いていないというのが現状です。私もその構想は持っていますが、そこをきちっとやっ
ていかないと。例えば、春日神社の神社としての観光化もできる神社にならない。それと（神社には）茶屋もない。一休みしてお茶の一杯も飲めるところがない。確かに王祇会館
の中に入れば休むところはあるが、そういう休み方ではお客さんは喜ばない。そこに必ず付き物
がお土産になる。その連携とシステムが出来上がっていない。そこを整備した段階で、羽黒山
から流れてきた時に「いいところだね」となるような寄せ方だと思います。態勢ができない限り、
2千～3千人は難しいと思われる。

産業建設課長

では、皆さんから見る現実的な目標数値をあげていければと思います。私どもが重要視したい
のは王祇会館で茶屋の機能が足りないとかそういった機能をこの17ページの中に書き込みた
いのです。そういった意見をいただければ庁舎側で単独で作成したのでなく委員の皆さんや若者
の意見を踏まえて書き込んだ内容になるので、今のようなご意見をいただきたいと思
います。

会長

今のような話は私の地区でもやっているが、意見交換しながら積み上げていくとか大きいもの
にしていくのはいいことだと思いますが。

産業建設課長

そこは意見によって修正をいたします。

目標数値を立てる時のやり方があって、アウトプットを出せという目標の立て方で考えていま
すので、根拠としては羽黒山から寄せているが、現実的なところで算出と言われれば規模は小さ
くなりますがそういう算出もあるので、そこは修正を加えたいと思います。

会長

G委員は午前中から2つ目の会合だということですが、何か気になったことがあれば願
いします。

G委員

事業計画NO1のフルーツランドは、産直めぐりとの棲み分けという視点で何か話があるので
すか。めぐりのパワーアップとからめて話が進んでいたらということと、ケーブルテレビの話が先
ほど出ていましたが、チャンネルの予定表も市民として気に留めて、関心のあるものを積極的に
観ている人々に話をし、中で盛り上がるのも大事なかなと計画をみて反省したところ
です。活用の仕方でも小中学生向けの塾など色んな人が飛びつくような情報だったら、櫛引・朝日の人
だけでもその時間になると日曜日のサザエさん感覚でテレビをつけるような形になったらすご
いなと思いました。あと、都市農村交流促進事業の中で、青木小の受け入れで一生懸命宿泊場所
を探しながら進めているようだが、今後はどういうふうに捉えたらいいのかと
思っていたところ
です。青木小の子供達や鎌倉女子大の人達に櫛引や鶴岡の魅力を伝えながら、また来
たくなるよう
なきっかけにしてチャンスとして捉えてもう少し何か活用できないのかとか、農家として
そういう
事業にどう協力していけるだろうかと思
いました。力を入れる事業なのか、縮小する事業なの

か。農業に関してはD委員同様、外国人だったり今やっていないことを受け入れる方向でやっていかないとうまくいかないのではと思います。

会長

ありがとうございました。今のことで事務局の方から何かありますか。

産業建設課長

あぐりの棲み分けについてですが、実はこのプロジェクトについては様々な団体から個別に話を聞いています。事務局としてはあぐりと別会社を立ち上げるという考え方は今のところなく、あくまでも次世代あぐりというところで考えられないか、あぐりと協議しています。次代のあぐりにつなげるための周辺整備ということで、今度あぐりの中で話し合いを持ってもらう形にしていますので、いろんな良い意見に期待しています。青木小学校の都市農村交流については、事務局としてはホームステイの受け入れ先も非常に苦慮しています。逆に事務局として続ける必要があるのか考えております。実は、G委員が言われた通りの提案がありまして、単に受け入れした疲労感だけではダメなので、この計画で提案しているものに、空き家を活用したゲストハウスを作りましょうというのがその発展形を狙っています。今まで修学旅行で来た2千人近くの人達は上は32～3歳になっているので、その人達が櫛引に来たい時に来れるような拠点を、相手方(横浜市)と櫛引と一緒に整備し、交流できる空き家を活用したゲストハウスという提案内容です。ただ通年型利用については皆さんと一緒に話し合う必要があろうかと思えます。

会長

KCTの番組の話ですが、番組の内容は市から決められているものなのですか。

F委員

ある程度プログラム自体はああいって形で型にはまったものとなっているものです。

会長

渡会電気土木ではKCTの指定管理を受けている訳ですが、指定管理の在り方をもっと柔軟なものにはできないものか。このことは、他の指定管理を受けているものも同じですが、例えばKCTであれば、コマースを流して収入を得る。それを財源に新しい番組を作るといったことはできないものか。別のケースでは、施設内で物を売って悪いとか色んな制約があるようです。一定の制約は必要とは思いますが、規則で縛らず多くのことを指定管理者の裁量に任せてもいいのではないかと。

F委員

一応コマースはやれるようになっている。ただ、PR不足で、まだまだ知名度が無いため事例が発生していない状況であります。

会長

コマースを流すとすれば、今のエリアでは狭い。KCTの放送網を全市に広げるなどしないとなかなかできないと思うが。

では、C委員、21事業の中で気になる事業などあれば教えてください。

C委員

21はかなり広範囲なので大変だなと思っています。背景ということで（振興方針の）イメージ図「きらきらして活気あふれるまち櫛引」はいいなと、それだけすごく思いました。ただ、鶴岡市だから「まち櫛引」でいいのかと思ったり。「きらきらして活気あふれる」とはどんなことかとそれだけ思っていました。

総務企画課地域まちづくり企画調整主査

ありがとうございます。もう一度内部で検討します。

櫛引町というのではなく、いわゆる「街」も「まち」であるし、大意はないです。

会長

では、こちらのH委員から何かありませんか。

H委員

私の方からは、NO20のイバトミヨの件です。これ全然知名度もなく、ただ地区に委託してというだけですよね。小学校の子供達が以前学校でイバトミヨを水槽で飼ったのをチラッと見たような記憶ですが、それ以外そんな希少価値のものがいると誰も知らないと思う。櫛引にそんな希少価値がいて保護している、地区に委託して保護しているということをもう少しPRしても良かったのではないかと感じていました。もう一つ、デマンド交通事業ですけれども、現在導入しているスクールバスの住民混乗型というのは、私の記憶では宝谷と糺代の方しか利用できないというのがあって地区限定だから逆に乗る人は限られると思うので、それを例えば黒川地区も回ればもうちょっと集まるのかなと。黒川能があることによって知名度は上がっているけれども、その他のものは黒川地区は何もないので、バスはぜひ実現していただきたいなと思います。一軒一軒まで回らなくていいので、一カ所で乗るとしたら週一回とか、何曜日は出ますよというように取り組んでいただけるようだとありがたいと感じました。

会長

はい、ありがとうございました。

総務企画課長

イバトミヨは、確かにそういうふうに取り組んでいました。地域の自慢として、それを象徴にしながら環境意識の向上に対しても基本的に意味はあるので、これからの取り組みについて考えあわせていきたいと思います。またデマンドバスは、今のご意見を参考にしながら構築していきたいと思います。

会長

では、D委員お願いします。

D委員

5ページのフルーツランド運営会社については、実際あぐりの次世代型の会社としていい内容だなと関心を持ちながら聞いていたところです。まず、富樫実先生の作品群については、先生はまだご健在でいらっしゃいますし、今のうちにKCTでインタビューを取るなどして今後将来に向けて作品への想いも含めて紹介できるようにしていただきたいし、また、先生からお出でいただいて一緒に作品をみながら直接お話を聞くなど、ぜひ機会を設けていただきたい。富樫 剛さん（横綱柏戸）についても柏戸会館での紹介とリンクさせていただければいいのかなと思います。

先ほどから出ていたKCTの件ですが、私もKCTの審議委員をした時に話をしたのですが、会長がおっしゃったように携帯電話と別回線等々契約すれば割引になるということができないというのは問題かと思えます。こういったインターネットの整備というのは、若い人の定着率に相当影響しているのではないかと。せっかくテレビを買っても4K・8Kの画面が見られないとか、そういったことがここに住みたいことを阻害していると思ったりしました。以前であれば小さな商店街があった訳ですが、大型店舗、電気屋さんとか紳士服とかジャスコのような総合的なスーパーからより専門的な大型店舗に替わって、今はネットスーパーになってお茶1本から無料で配布するようになってきています。すると必ず人は使うので、やはり時間・速さでストレスを感じるようであればネットになるのかなと思えます。あと、たくさん事業が新規・継続で載っていますが、H委員からあったように、イバラトミヨなどの絶滅危惧種もこれからもっと大事にしていかなければならないと思えます。そういった観光資源の掘り起こし、あるいは遊具施設を梳代に作るのもいいのですが、今あるものをどうするのかという話がなかったのかなと思えます。合併する前、櫛引も運動には相当力を入れて運動公園・陸上競技場にトラックも設けて国体のサッカー会場にもなりましたが、今見ると結構草だらけである。スクラップ&ビルドで運動公園を小真木に集約するのでなくするというのであれば別ですが、そういったものの整備、今せっかくあるものをどうするのか、お金のかけ方も考慮していただきたいと思えます。そして、芋煮会でも結構な利用者がおりますので、あの辺に子ども広場をつくるとか東屋をもう少し広くして、ブラッシュアップするのも一つの手なのではないかと思えます。

会長

ありがとうございました。

事務局からは今の話に関係ありますか。

総務企画課長

通信回線については先ほどお話しした状況にあります。

会長

運動公園なども前は管理がもっと良かった。やはり利用率も下がってきたのではないかと思う。前は頻繁に使っていたが、これも人口減少のあおりかも知れませんが、ソフトボール大会をナイターでやるとか色んなイベントをあそこで行ったし、その際は必ず整備していた訳だけれども、今空いている時間の方が多いのでは。

D委員

やっぱりこれは利用率・稼働率とも下がってきているとすれば変わる時期にきているのかなとも思えます。

会長

F委員はほかにどうですか。

F委員

黒川の春日神社周辺がきれいである。ただ、あの辺のアクセスが悪いのでその対応ができればなと思えます。

人口減少については、商工会の方でもいろんな事業を進めるプランもありますので、一緒になって展開していく形になるかと思えます。

E 委員

一つだけお願いなのですが、貸自転車の話しです。(東大の学生が農家民宿に泊まった時) 貸自転車を借りてきたのだが、タイヤの空気が入っていないで大変だった。整備したものを貸し出すような態勢が必要だと思いました。

産業建設課長

ここで想定しているのは電動アシストが付いていて、しかもどこにあるかもわかるGPS機能がついたもので、市内各所に乗り捨ててもいいような自転車です。

会長

予定の時間を超えてしまいましたが、その分色んなご意見を頂いたのかなと思います。

今回は12月の予定だそうです、次回もよろしくお願いいたします。ご協力ありがとうございました。

4 その他

－ 特になし －

5 閉会

総務企画課長

では、どうもありがとうございました。それでは、ただ今活発なご意見が出されましたので、これを参考にまずは31年度予算要求が始まります。それに向けて頑張っていきたいと思われ、12月に向けてこの計画を素案から案にする提案をしていきたいと思われ、よろしくお願いいたします。また、各地区の座談会において色んな意見いただくこともあろうかと思われ、その意見なども参考にしながら進めてまいります。

それでは、以上をもちまして平成30年度第3回櫛引地域振興懇談会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

